



菓子にまつわる江戸幕府の儀式を紹介する宮崎准教授＝浜松市中区のホテル

# 大名統治に菓子の力

## 「食」を通じ徳川政権学ぶ

中区で講演会

食を通じて徳川家康や徳川政権への理解を深める講演会「家康好みを浜松食材で探る」(浜松市主催)が22日、同市中区のホテルで開かれた。静岡文化芸術大文化・芸術研究センターの宮崎千穂准教授が講演し、菓子にまつわる江戸幕府の儀式が

統治の上で果たした役割などを説明した。江戸城で大名にまんじゅうなどの菓子を振る舞う「嘉定(かじょう)」や、将軍が自ら大名に餅を手渡していたわる「玄猪(げんちよ)」といった年中行事の様子を、浮世絵や史料を踏まえて紹介した。

大名の格に応じて席次や菓子の受け取る順番が異なるなど、儀式によって「将軍の権威」と家臣の序列化が進んだ」と指摘。菓子の力が将軍と大名の仲をつないただけでなく、社会秩序の創出を助け、「政治的安定のための装置として機能したのでは」と持論を述べた。

徳川宗家第19代当主の家広氏、浜松パワーフード学会の秋元健一さん、宮崎准教授の3人による「日本の食文化と徳川家の歴史」をテーマにしたパネル討論もあった。(浜松総局・柿田史雄)